

第9回教育委員会（定例）議事録

1 開 会

令和7年10月22日（水） 14時04分

2 場 所

市役所第2庁舎3階 2-301・302会議室

3 会議に出席した委員

教育長 丹後 政俊
委 員 西田 正志
委 員 鈴木 友美
委 員 吉良 佳晃
委 員 倉 真智子

4 会議に出席した職員

学校教育部長 酒井 寛興
こども未来部長 田中 正典
社会教育部長 中野 悟
学校教育次長 小嶋 拓也
教育総務課長 山内 俊秀
学校教育課長 石井 健一
東部学校給食センター所長 糸川 尚子
西部学校給食センター所長 畑岡 俊成
子育て企画課長 山鳥 有史
保育教育課長 山田 康弘
社会教育・文化財課長 辻川 貴志
中央図書館長 田中 真紀子
田園交響ホール館長 酒井 直隆
中央公民館長 竹見 朋子
教育総務課副課長 近成 和泉

5 議事日程及び議案

別紙の通り

6 開会宣言

14時04分

7 会 期

（自）令和7年10月22日 （至）令和7年10月22日 1日間

8 会議録署名委員名簿

西田正志委員

9 閉 会

15時04分

丹後教育長	日程第1、令和7年度第7回及び第8回会議録の報告、承認について意見等はないか。
全委員	異議なし。
丹後教育長	全員異議なしで、会議録をこのとおり承認する。
丹後教育長	日程第2、会議録署名委員は、1番西田正志委員を指名する。
丹後教育長	日程第3、会期は令和7年10月22日、本日1日間とする。
丹後教育長	日程第4、報告事項に移る。報告1「寄附採納について」、教育総務課に報告を求める。
近成副課長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告2「後援名義の承認について」、教育総務課に報告を求める。
近成副課長	《議案書に基づき報告》
西田委員	「第8回おにわマルシェ」及び『自主上映会「夢見る給食」、講演会「中末農園の中末智己さんに現在の篠山の学校給食における有機農産物について」』、どのような内容か教示願う。
山内課長	ともに初めての後援申請ではなく、「第8回おにわマルシェ」については、油井地内の住民が有志とともに、マルシェという形での物販や昨年度はミニ列車を運行し、地域の交流活動をされたと記憶している。『自主上映会「夢見る給食」、講演会「中末農園の中末智己さんに現在の篠山の学校給食における有機農産物について」』についても、子どもたちに有機野菜等、身体にやさしいご飯を食べさせようという活動をされており、昨年度もタイトルは覚えていないが、同様の映画上映等の申請があった。
西田委員	学校給食における有機農産物について、もう少し教示願いたい。
近成副課長	申請書には詳しい内容の記載がなく分からない。
西田委員	後援申請内容について、全てを細かく精査する必要まではないと思うが、「現在の篠山の学校給食における有機農産物について」とのタイトルで講演されるのであれば、その内容は確認しておいていただきたいと思う。
山内課長	昨年度の申請時の記憶になるが、本市の学校給食へ有機野菜等を納入されている農業者の話聞く中で、保護者等のネットワークを広げていきたいとの意向を持たれ活動されていると認識している。今後においても、しっかりと内容説明できるように取り組んでいきたい。
吉良委員	中末農園の中末智己さんは有機農産物を推進されている方であり、大きく路線を外されないと思う。

丹後教育長	報告3「篠山養護学校における学校名変更の要望に対する対応について」、教育総務課に報告を求める。
山内課長	《議案書に基づき報告》
西田委員	基本的には反対するものではないと思っている。本市の規模で特別支援学校を運営していくことについては、財政的な負担が大きい、それぐらい先人は思いを込めてこの学校を設立され、今に至っている。だからこそ、校名変更については、そのような方々の意向も聞きながら慎重に取り組んでいくべきことであると思っている。県立の支援学校においては、法改正に伴い一斉に特別支援学校という名称に変わったが、市立の学校においては、当時は愛着もある中、名称は残してほしいとの希望が強かったと思う。しかしながら、インクルーシブ教育を進めていくという大きな方向性の下、支援していく考え方が主流になっている中での校名変更の要望は理解するところである。最終的には、アンケート等の経緯や何点かの反対意見等、学校長の想いを聞いてみたいので、機会を設定してほしい。
山内課長	校長から相談を受けた後、情報を共有しながら進めてきた。最終決定を行う第3回の学校運営協議会についても、学校教育部次長とともに出席した。その会議においても多様な意見が出る中で真摯に協議いただき、今回の結論をとりまとめられたことについては敬意を表するところである。学校長の想いを聞く場については検討する。
西田委員	我々、教育委員においては現場の想いを聞く機会も大事であると思うとともに、現場の校長においては、こういう場でプレゼンする力が求められていることもあり、機会をつくっていただきたいと思う。
丹後教育長	報告4「小中学校児童生徒の問題行動等について」、学校教育課に報告を求める。
石井課長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告5「令和7年度10月小・中・特別支援学校定例校長会について」、学校教育課に報告を求める。
小嶋次長	《議案書に基づき報告》
西田委員 小嶋次長 西田委員 小嶋次長	「新たな学びの日」の実施に向けた通知は既に保護者に届いているのか。届いている。 あえて聞くが、市長との協議、確認は済んでいるのか。 書面の内容について協議し、確認できている。

丹後教育長	報告6「令和7年度9月幼稚園・こども園長会について」、保育教育課に報告を求める。
山田課長	《議案書に基づき報告》
鈴木委員	ホームページを見たが、以前と比べ、「利用調整にかかる基準表」が見やすい場所になり感謝する。利用調整にかかる基準表の調整指数において、以前から指摘しているが、「前年度に待機（12か月以上）」が+4、「前年度に待機（6か月以上）」が+2と記述されているが、待機児童と保留児童の区別がつかない方が多いことから、ここに「保留児童は除く」等の記述をしてはどうか。記述や受付時の説明を検討いただけたら嬉しく思う。
山田課長	他市の状況等も確認しながら検討させていただく。
丹後教育長	報告7「丹波篠山市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱について」、社会教育・文化財課に報告を求める。
辻川課長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告8「雑誌スポンサー制度の導入について」、中央図書館に報告を求める。
田中館長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告9「教育長報告」について報告する。 前回の定例教育委員会以降のスケジュールについては22～24頁に記載している。9月25日や30日、10月6日、14日、21日には、財政持続的発展計画検討会の予定を記載しているが、この会については市長を中心に副市長、理事、財政課や総務課職員が集まり、来年度の予算含め今後の市財政をどうしていくのかということを検討している。 人件費の高騰等もあり、本市は非常に厳しい財政状況にあり、今年度も厳しい予算編成となったが、来年度はさらに厳しくなることが予測される中、人員削減や事業精査による経費削減について、本当に厳しい討議を行っている。年度当初から実施してきた会議であるが、私はこの9月から参加している。教育委員会についても、非常に多くの経費がかかっていると同時に人員も多いこともあり、厳しい指摘が続いている。教育委員会事務局における削減もそうであるが、現場の子どもたちのケアにあたっている支援員等の市費職員についても、今までは充実していたと思うが、そこに切り込むように言われている。現場のそうした市費職員を切るということは、直接、子どもたちに影響を及ぼすこともあり、もちろん意見はしているが、市全体の中で厳しい状況である。着地点が見通せない状況ではあるが、非常に厳しい状況で

あることを伝えておく。

10月の定例校長会の教育長挨拶において、9月に行われた小学校の運動会や中学校部活動の新人戦等の行事において、みんなで力を合わせて一つのことを成し遂げるという経験、体験は、子どもたちに身につけさせようとしている「これからの未来を生き抜く力」に大きな効果があることから、みんなで協力しながらそういう体験的な活動に取り組んでいこうと話した。そのことは、第4期教育振興基本計画でも掲げている「一人一人が光り輝き幸せに生きる」、教育を通じて持続的で多面的な幸せや生きがいが続くウェルビーイングが実現する社会につながることを話した。また、校長に働き方改革のポスターを示しながら、掲示を依頼する際には、教員が楽をしたいからの取組ではなく、子どもたちに良い教育を実施するために必要なことであることを説明しながら理解してもらおうということと話した。これは昨日の兵庫県都市教育長会議でも議題になっており、本市の取組を発表してきた。

次に、市議会議員の一般質問の中で、校長や学校現場に伝えておいた方が良いと思うことを伝えた。多くの質問をいただいたが、一般質問については前回の教育委員会でも報告したので簡単に報告する。市学力調査の小学5年生の結果において、近年になく全国平均と比べて多くのマイナスがあったことから、今後どのように取り組んでいくのかという趣旨の設問に対しては、全国と比較するためだけに学力調査を実施しているのではなく、どこに課題があるのかを把握し、その課題を克服し、学力を伸ばしていくことを目的に実施していることを回答した。なお、結果や課題については、各学校で対応を進めているとともに、保護者にも通知し、説明している。それぞれの学校の子どもの課題を的確に掴んだ上で、その対応を実行していくことが大事であると思っている。

学校のトイレに生理用品を設置したらどうかの提案については、衛生面の心配等もあり、養護教諭からは特に要望がないこと、直接、保健指導含め話し合える機会になることもあり、本市では設置していないと回答した。校長会では、県内においては3割程度の市町でトイレに設置している調査結果も示した上で、設置要望があれば伝えてほしい旨を校長に投げかけた。その後、新たな要望はない状況である。

次に、教育委員会で発生した色々な課題の責任者としての質問に対し、責任は感じており、行動で改善していきたい旨を回答するとともに、研修も実施していく旨を回答した。私の考えるリーダーシップについては、先月も報告したが、直接、陣頭指揮をとり具体的に指示していくというよりは、意見を出しやすい環境をつくった上で、みんなで意見を出し合うことに尽力しており、教育長の言うことだけを聞くのではなく、それぞれがリーダーになって進めていこう、そういう組織の進め方と説明した。

古市小学校の危険遊具に対する対応の遅れについては、記載のとおり「見落としを許さず、小さな兆しにも敏感に向き合う姿勢を大事にしていきたい」と思っている。油断も出てきてしまうこともある中、意識を高く持って

西田委員

やっていくための研修実施を検討している。

財政持続的発展計画検討会に関し、教育委員としては、なぜお金がないのかを示してほしいと思っている。報道によると、人件費の高騰が市費を直撃しており、財政力の弱い市町は課題となっているようなことも聞くが、そうした説明も受けない中、お金がないから削るという進め方については違和感がある。きちんとした説明を受け、その上で何とか協力してくれないかとのことであれば、教育論の中で考えることができるが、それは一切言わずに人数だけが提示され削減される形のままであれば、教育委員として議論できる土俵にないように感じる。

働き方改革のポスターについて、部活動の地域展開についても同様であるが、先生が楽をしたいから取り組んでいる訳ではないことが前面に出ているが、本来、超過勤務は「ゼロ」であるべきことである。そのための働き方改革であることを堂々と言えない風潮に違和感がある。子どもと向き合える時間をたくさんつくることは大切なことであり、その通りであるが、先生も人間であり、正当な権利を求める過程において、言い訳がましいことを言わなければならないこと自体がおかしいと思っている。なぜ、教育界だけがそうしたことを言わなくてはいけないのかと感じている。

一般質問の学力に関する答弁において、「今回の令和7年度の小学5年生の結果については近年にないことであり、重く受け止めている」としながらも、一方で「過去4年間の丹波篠山市の学力調査や全国学力・学習状況調査の結果を見ると、実施年度や学年によりバラつきはあるが、小学校では全国並み、中学校では全国並みか若干上回る傾向にあり、丹波篠山市の子どもたちの学力は全国と比べて大きく下回っていることはない」としており、議員の指摘を受け止めていないように感じる。逆の言い方で、「過去4年間の丹波篠山市の学力調査や全国学力・学習状況調査の結果を見ると、実施年度や学年によりバラつきはあるが、小学校では全国並み、中学校では全国並みか若干上回る傾向にあり、丹波篠山市の子どもたちの学力は全国と比べて大きく下回っていることはない」が、「今回の令和7年度の小学5年生の結果については近年にないことであり、重く受け止めている」、だからこれから改善に取り組んでいくとの答弁のほうが良かったと思う。なぜそれを言うかというやっぱり、事務局の報告にもあまり危機感を感じなかったとともに、全国比で中学3年生の学習時間が20ポイントぐらい低いということも非常に衝撃を受けた。私自身は大変なことと思っており、事務局も同じように受け止めていると思うが、答弁の流れからは事務局が真摯に受け止めていないように捉えられてしまうと思った。今回の結果を分析、我々、教育委員も勉強する中で原因を一緒に考え、学力向上を目指していく必要があると思う。改善に向けては、反復練習しかないと思っている。結果のみを追求する反復練習を言っているのではなく、基礎基本があつてこそその様々な力の積み上げであると考え、それを否定するような学力観は間違っていると思う。丹波篠山市の目指す学力観を教育委員会事務局と共有したいと思っている。

丹後教育長	<p>一般質問の学力に関する答弁については、中学1年生や中学3年生の結果は全国並みであった中、そうしたプラスの部分には触れずに小学5年生の結果だけを取り上げ、一般化された質問であったため、多くの保護者や市民に不安を与えてしまうのではないかと危惧する中で回答したのが意図である。当然、大きな課題と捉え、対応していくが、これまで本市がしっかりと積み上げてきた教育が間違っている訳ではないことも伝えておく必要があると思ひ答弁した。</p> <p>教員の働き方改革については、10月のOECDの調査からも、日本の教員の労働時間は世界で一番長いこともあり、減じていく必要がある。そうした背景も踏まえ、正当性を全面的に主張し、取り組んでいくとのご意見も理解するが、一方で先生自身が自分たちでは言いにくいことから、教育委員会ではほしいとの声もあり、今回の教育長会議発出のポスターに繋がっているのも事実である。なお、教員が余裕を持って働けることは、子どもたちに返っていくことも間違いなく事実であると思っており、自分たちのためだけではないということは伝えてもよいと思っている。</p> <p>次年度の予算編成や人員配置について、教育委員への説明機会が設けられれば良いと思うので、西田委員のご意見については、しっかりと伝えていきたいと思う。</p> <p>以上で、本日の審議は全て終了する。</p> <p>これをもって、第9回定例教育委員会を終了する。</p>
-------	--